観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成30年12月10日（15,000部） 発行
2018.12 Vol.64

学校法人日本ホテル学院
発行所／専門学校日本ホテルスクール
一般財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
https://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

英誌「MONOCLE」が

世界のホテル学校4校を紹介

ローザンヌ、コーネル、ブルネックと並び、本校もその一つに

掲載誌を手に
写真左：学務室　塚本真央先生、写真右：学務室　田丸ひろみ先生

先般、英国で出版されている「MONOCLE」の編集から取材があった後、10月立派な掲載本が届きました。そこには、世界のホテル学校が4校、①ローザンヌホテル学校（創立1893年、スイス）、②ブルネックホテル学校（創立2013年、イタリア）、③日本ホテルスクール（創立1971年、日本）、④コーネルホテル経営学部（創立1922年、米国）が紹介されていました。

「MONOCLE」は、英国発のライフスタイル・マガジン『WALLPAPER』を手掛けたタイラー・ビュリレ氏が創刊した総合情報雑誌、世界を舞台に活躍するビジネスマンや企業家へ向けて、独自の視点で国際情勢、ビジネス、カルチャー、デザイン等々の最新情報を発信、年間10回、80カ国で77,000部発行されています。

それぞれ世界的に知名度の高い由緒あるホテル学校と並んで、世界的に著名な英誌に紹介されたことは、本校にとって大変名誉なことです。

開校以来、47年間にわたって国際化に向けて活動してきたことが、海外の雑誌社の目に留まったものと思われます。全員参加の海外研修旅行に参加者累計約25,000人、海外就職／インターンシップに累計約1,000人、アメリカ・カナダ・オーストラリアへの1年間留学制度専攻累計約2,000人、外国人留学生受入累計約400人、アメリカ、スイス、オランダ、オーストラリア、フィリピンの大学との単位互換提携、開発途上国観光研修生受入累計約1,000人、過去約30年間にわたる業界関係国際会議等への出席、過去23年間にわたる日本旅館国際女将会の27カ国訪問等々は、海外への露出度も高く、国際協力、本校の主催行事、教職員・学生の海外交流等々が作用したのかもしれません。また約12,600名の卒業生の内外における活躍ぶりが、シナジー効果を生み、英誌編集の目に留まり、取材に結び付いたのかもしれません。

いずれにせよ、英誌「MONOCLE」での記事掲載は、在校生、卒業生にとって、また学校関係者全員に、誇りを持ってもらえる機会となりました。原本は、本校の図書室にありますので、いつでも閲覧できます。同誌編集の皆様に感謝いたします。

本校が紹介された英誌「MONOCLE」の掲載ページ

発足から20年

－先駆けとなった本校のブライダル学科－

校長　石塚　勉

ホテル結婚式が盛んであった約25年前、人材育成の機運が高まり、時代の要請に対応すべく1998年国際ホテル学科の中に「ブライダルコース」を発足、2001年昼間部及び夜間部に「ブライダル学科」を設置、これまで1940人（年平均97人）が卒業しました。

当時、数校だったブライダル学科も、今では全国で約160校に及んでいます。

発足時より、①ブライダル総論、②ブライダルマーケティング、③ブライダルプロデュース、④ブライダルの装美と演出等々の教材を開発、後発の多くの専門学校にも提供してきました。2010年には、「The Master of Bridal Coordinator 2010」で、応募87名中、山本浩子先生が優勝して日本一になり、業界を代表する日本ブライダル文化振興協会（BIA）より、MBCの認定を受けました。

また、BIAの会員として、運営協力、検定試験協力を行う一方、産学連携を基本に、「カラーコーディネート」、「ブライダルコスメ」、「和装着付」、業界関係者約80名を招いての「ブライダルゼミ発表会」、「卒業式袴展示会」等々、教育の進化を図ってきました。これらは常に日本のブライダル教育の先駆けとなりました。

今年で創立20周年を迎えたブライダル学科、2019年2月の「ブライダルゼミ発表会」では、業界関係者約120名を招いての記念式典も予定しております。これからも皆さんのご支援宜しくお願いします。

中央：が全国大会で優勝、MBC日本一に輝いた山本浩子副校長

ホテル総支配人、企業トップ、業界の方々を迎え、第27回弁論大会を開催

～日本語部門最優秀賞：中村友海さん　英語部門最優秀賞：正木友梨香さん～

弁論大会は「表現力、語学力の向上」「同世代間の考え方・価値観の共有」などを目的として開始され、今回で27回目を迎えました。

本大会は、学内レベルの大会としては類を見ない規模で、毎年、外資系ホテル総支配人や業界企業トップの方などゲスト審査員を迎えて実施しています。

審査員の皆様と記念撮影

審査員は業界トップの方々

今年の弁論大会は、「業界発展のために私たちが提案すること」を論題とし、ホテル・ブライダル実習や研修、アルバイトなどを通して日ごろから日本の“サービス”に対して感じていること、留学経験からの海外での生活を通した日本の文化や日本人の価値観の再認識、そして将来の活躍の場であるホテル・旅館、そしてブライダル企業がとるべき行動といった話題など、弁士は予選会からさらに内容をまとめ、練習した成果を発揮し、堂々と伝えていました。

激戦を勝ち抜いた、10名の弁士

弁士紹介（発表順）

■日本語部門

2年	阿部　伸司	チップで変わる日本のサービス
1年	藤野　彼方	ロボットの熱と人間の温かみ
2年	阿部　遥	時代遅れな日本の魅力
2年	中村　友海	「記憶」
1年	酒井　彩希	「背負えるもの」

■英語部門

2年	中川　真梨	Life and Work Balance Consciousness
2年	新舘　桃夏	Revival of Ryokan
2年	正木友梨香	A Little Kindness
1年	松村　莉乃	The Importance of Employee Satisfaction
2年	譚　皓謙	True Nobility

審査結果発表、表彰式の後、ゲスト審査員としてご出席いただきました、パーク ハイアット 東京 総支配人エルヴェ マゼラ様よりホスピタリティ業界の代表として弁論大会を総評いただくとともに、将来、ホテル・ブライダル業界を担う本校の学生に対して、“Passion”（情熱）、“Hard Work”（一生懸命・勤勉）、“Never give up”（諦めない気持ち）とともに“Love”（愛情）という概念から、自身に限界を設けず成長して欲しいというメッセージをいただきました。また、グローバル・ホスピタリティ研究所代表田中勝様からもホテル、ブライダル業界での活躍をめざす弁士、そして在校生に総評とともにメッセージをいただきました。

パーク ハイアット 東京 総支配人
エルヴェ マゼラ 様より総評と
学生へのメッセージ

日本語部門最優秀賞受賞／左から、
ザ・リッツ・カールトン東京
ホテルマネージャー 小南 正仁 様、中村さん、石塚校長

英語部門最優秀賞受賞／左から、
グランド ハイアット 東京 総支配人
スティーブ ディワイヤ 様、正木さん、石塚校長

審査員として主席したスコールクラブ東京の
ファビアン クレール会長と交流も図りました。

ゲスト審査員の皆様【順不同】

Charlotte Cooper 様	ANA インターコンチネンタルホテル東京	ホテルマネージャー
ロス クーパー 様	アンダーズ東京	総支配人
江口 英一 様	株式会社観光経済新聞社	企画推進部長
Steve Dewire 様	グランド ハイアット 東京	総支配人
田中 勝 様	グローバル・ホスピタリティ研究所	代表
Fabien Clerc 様	スイス政府観光局	日本支局長
小林 信次 様	株式会社 埼玉西武ライオンズ	前代表取締役社長
Joseph Lee 様	ザ・ペニンシュラ東京	副総支配人
小南 正仁　様	ザ・リッツ・カールトン東京	ホテルマネージャー
阿部 貞三 様	株式会社柴田書店	編集企画部 取締役部長
野田 兼義 様	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	専務理事
上神田　梅雄　様	学校法人新宿学園　新宿調理専門学校	校長
内山　渡教 様	ハイアットセントリック銀座東京	総支配人
エルヴェ マゼラ 様	パーク ハイアット 東京	総支配人
佐藤　進　様	ホテルメトロポリタン	総支配人
木頃　由紀 様	六本木ヒルズクラブ	総支配人
岸 琢也 様	フォーシーズンズホテル丸の内 東京	ホテルマネージャー
安部 トシ子 様	一般社団法人ワールドワイドパーティプランナー協会	代表理事
太田　エイミー 様	モデル兼タレント	

秋の恒例行事 2018年度体育祭を開催
～10月26日　台東リバーサイドスポーツセンターにて～

2年生全クラスが集まって行われる体育祭。夏休みが終わった9月から実行委員会を立ち上げ、約2か月に渡ってこの日のために準備を進めてきました。

当日は快晴の中、東京スカイツリーを背に様々な種目を競い合いました。今年は担任の先生が参加する種目が多く、クラス全体で盛り上がりました。

スムーズな運営ができるかなど、実行委員会内で心配されましたが、各委員の機敏な働きぶりと協力体制のおかげでスムーズに閉会式まで無事終えることができました。

総合優勝Aクラス

先生運び
学生手作りの「ダンボール神輿」で
運ばれる島田先生

毎年恒例「クラス対抗綱引き」

大玉送り

台風の目

アジア最大イベント「ツーリズムEXPOジャパン2018」開催
～昼・夜間部学生600名が参加～

9月22日、実習中・夏休み中・留学中を除く昼夜間部学生600名がアジア最大規模の観光イベント「ツーリズムEXPOジャパン2018」に参加しました。

今年の来場者数は過去最高の207,000人となり、各国のブース、国内ブースとも非常に活況でした。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内観光産業は大きな発展が望めるため、今後の業界動向に注目が集まっています。

観光業界の発展には、若い活力、人材が不可欠です。本校の教育では業界に貢献できる人材育成に向けて今後も努力してまいります。

伝統芸能や衣装など、各国の文化を学んだ

現地の観光関係者と交流

昼間部2年生の海外研修旅行先
イタリアのブース前にて

就職ガイダンスを実施
～昼間部1年生対象～

今回実施した、OB・OG講話では
現役のホテリエの話を伺う

9月に実施した男子学生対象の
身だしなみ講座

昼間部1年生を対象とした就職ガイダンスを10月23日に実施しました。

9月に実施したガイダンスでは、就職活動を開始するにあたり、「グループディスカッション講座」、男子学生を対象に「身だしなみ講座」、女子学生を対象に「ヘアメイク講座」を実施しましたが、今回のガイダンスではより実践的な内容を実施しました。

面接の基本動作講座では、企業での面接に備え、入退室など、一連の流れを練習し、自己PR講座を通じて面接で自分をアピールするコツを学び、ホテル・ブライダル企業で活躍する卒業生のOB・OG講話、企業の人事担当者による講演と模擬面接を実施、学生たちは企業の理解を深め、自分の進路について考える機会となりました。

「和食体験&ホテル見学」を実施
～会席料理を体験し、和食への関心を促す～

夜間部1年生の学生を対象に学校行事「和食体験＆ホテル見学」を10月16日、都内ホテル内の和食レストランにて実施しました。

2012年度から毎年実施している「和食体験＆ホテル見学」は、会席料理を体験し、和食への関心を促し、就職観を養う行事として実施するものです。

食事中、レストランのスタッフからは、お椀の開け方・置き方などの作法など、和食にまつわる由来など楽しい会話をしていただき、サービスの内容だけでなくその知識の豊富さも学生の勉強意欲を刺激するものだったと思います。

各ホテルでは、本校卒業生のホテルスタッフの方たちに実際にサービスをしていただいたり、ホテルでの仕事内容やこれまでのキャリアなど話したりしていただき、就職活動を目前にしている学生にとってはとても良い経験になりました。

懐石料理の神髄、お椀を味わう

施設見学ではスタッフから説明を受ける

観光業界の世界的な交流組織
“Young Skal Club Japan”入会認証式を実施

観光・ホテル業界での次世代を担う人材育成を目的として、英語専攻科の学生を対象に創設されたヤングスコールクラブ（YSCJ）の2018年度の会員登録を行った学生38名を対象に10月15日、入会認証式を挙行しました。新メンバーとなった英語専攻科の学生をスコールインターナショナル東京の下部組織となったことを改めて発表するとともに、今後のメンバーの国際的視野を広げるきっかけとなることを期待する式典です。

式典には、Skal International Tokyoから井上嘉世子会長、Fabien Clerc氏（Secretary-Treasuer）の2名の来賓が学生たちの新しい船出を祝福してくださいました。

前列左から4人目：井上嘉世子会長　5人目：Fabien Clerc氏

クラブ活動紹介

レストラン研究会
～山形の芋煮会～

11月14日、和食文化・郷土料理シリーズとして、本場 山形の芋煮会を行いました。

山形では、芋煮会は秋の風物詩として県内各地で行われています。山形出身の学務室の田丸ひろみ先生指導の下、山形産の里芋と山形の出汁醤油を使って牛肉、舞茸、こんにゃく、長ネギも加えおいしく出来上がりました。初めて味わう本場の芋煮に舌鼓を打ち、大鍋の芋煮はあっという間になくなってしまいました。これから郷土料理も活動に取り入れていく予定です。

顧問　川辺修先生

大鍋２０人前をあっという間に完食

ホテル・ブライダル研究会
～帝国ホテル東京　施設見学会を実施～

ホテル・ブライダル研究会では、色々なホテル、ブライダル企業を知ってもらうことや、なかなか個人では踏み込めないスペースを見る機会をサポートしよう！という気持ちをモットーに活動企画をしています。

今回は一流ホテルとして学生からも大変人気の高い格式あるホテル『帝国ホテル東京』を見学しました。

重厚感のあるチャペル

フランクロイドライトスイート

ご案内いただいた場所は、いずれも一般の利用では入ることができないような、帝国ホテルらしい施設ばかり、VIPのためのラウンジやバー、客室では、近代建築家のひとりと呼ばれ、20世紀を代表する米国人建築家フランク・ロイド・ライトが手掛けた世界でたった一つしかない『フランクロイドライトスイート』を見学させていただきました。

英誌「モノクル」で紹介された記事の紹介

1, Ecole de Hoteliere de Lausanne　（Lausanne Switzerland）
　ローザンヌホテル学校　（ローザンヌ、スイス）
2, Hotel School Bruneck（Bruneck, Italy）
　ブルネックホテル学校　（ブルネック、イタリア）
3, The Japan Hotel School（Tokyo, Japan）
　日本ホテルスクール　（東京、日本）
4, Cornel School of Hotel Administration（Ithaca, USA）
　コーネルホテル経営学部　（イサカ、米国）　（掲載順）

3. The Japan Hotel School
Tokyo

At the Japan Hotel School in Tokyo, students are learning to take an order, proffer a menu, lean in at just the right angle and pour a glass of wine. With their bow ties, white shirts and black waistcoats, they look the part. It's a lively class with plenty of missteps and a fair few giggles. The stumbling block for most is successfully opening a bottle of wine graciously with a waiter's corkscrew.

Not all of them manage. But the instructor Shinji Ueno, a graduate of the school, guides the students and corrects their mistakes with good humour. This classroom has been decorated to suggest a smart restaurant; another has a reception desk. But the pièce de résistance is a hotel room complete with bathroom and amenities. "We show this to high-school students who are deciding on their career path," says Tsutomu Ishizuka (*pictured, above centre*), the school's president. "This room seals the deal."

Founded by the Prince hotel chain in 1971, the nation's only dedicated hotel training school became known as the Japan Hotel School in 1976. At this time, it was put under the auspices of the Ministry of Transportation, just as the government decided it was time to develop Japan's hotel industry. Since 2009 the school has been overseen by the city authorities. Today, with the government determined to attract 40 million visitors a year, trained hotel workers are more in demand than ever.

At ¥1.6m (€12,100) a year for tuition, the school isn't cheap, but it has such strong connections to the hotel industry that most students secure a job before graduation, almost all in Japan. There are classes on a range of subjects, from languages to French wine and cutlery placement. Students study for two years but six months of that is spent doing paid internships at some of the top hotels in Tokyo. "Of course we already have a culture of Japanese *omotenashi* [hospitality]," says Mansaku Nakayama, who manages the education programme. "But that only takes you so far. It's important to do the fieldwork to get a more international perspective."

According to school president Ishizuka, hotel management education at a senior level is lacking in Japan, where people have traditionally learned on the job. And that isn't necessarily a bad thing. "I've travelled to more than 40 countries to look at hotels around the world and the level of Japanese service is very high. Japanese hotel staff really care," says Ishizuka. "We have requests from universities in Asia to go and teach them 'the Japanese way' but you cannot teach these things in a short time. You have to do it."

At the end of their course students sit a series of proficiency tests and emerge ready to start careers. "I was always interested in hospitality," says Ryoji Kato, a 20-year-old graduate from Kanagawa. "I want to aim for the very top and for me that's the Imperial Hotel, Tokyo."

jhs.ac.jp

School in numbers

Founded: 1971

Number of students: 845 (520 on the main hotel course; the rest are shared between the bridal course and the English-language course)

Length and price of the course: Two years; ¥1.6m (€12,100) a year

Number of graduates who leave with a job: 100 per cent

～ＪＨＳ同窓会便り～

第50回「JHS同窓大学」を北海道で開催
～卒業生、同窓会関係者などが16名が参加～

卒業生の交流の場「同窓大学」を、札幌グランドホテルで7月7日に開催しました。同ホテルは1997年6月に記念すべき第1回同窓大学を開催したホテルです。

勉強会では特別講師として札幌国際大学観光学部国際観光学科宮武清志教授をお迎えし「国際観光と北海道」というテーマでお話しいただきました。講義の中で「北海道を訪れる訪日外国人旅行客はアジア圏を中心に順調に伸びている。特にキャンプを目的に訪れる台湾からの観光客が増えており、台湾人を含めベジタリアン（採食主義者）にも対応できるユニバーサルな食環境の整備が今後の課題であろう」と語られました。

記念すべき第50回同窓大学参加の卒業生や関係者

札幌国際大学　宮武教授の講演
テーマは「国際観光と北海道」

終了証の授与

また今回は、内田晃市中国支部長ならびに大山久尚 東北支部長にもご参加いただき、勉強会後の懇親会では北海道支部の卒業生と大いに語らい親交を深めました。

■同窓会に関するお問い合わせ
同窓会事務局：TEL:03-3360-8231　FAX:03-3360-8584

世界で活躍する卒業生

韓国

左から：石塚校長、金さん、高野先生

金（Kim Jae Jeong）さん（1988年卒業）は、韓国の「ロッテホテルソウル」で宿泊セールスチームマネージャーとして活躍しています。

金さんは、日本ホテルスクールを卒業後、ロッテホテルソウルに勤務。総支配人秘書、社長秘書を20年余り経験し、現在の宿泊セールスチームのマネージャーに就任しました。

就職した当時はまだホテルで働く女性も少ない時代だったそうですが、ロッテホテルは日本式のホテルだった為、日本で学んだ事が大変役に立ったと語っていました。

モンゴル国

モンゴル出身の卒業生　ダワ（Davaa Tegshjargal）さん（2005年卒業）より、モンゴルのホテル業界人材育成のための「国際ホテル人材育成協会ＮＧＯ」を立ち上げた、との報告がありました。

日本大使と面会するダワさん

ダワさんは、モンゴル帰国後、2012年からドイツ生まれのケンピンス キーホテル(当時ウランバートルで唯一の国際チェーンホテル)でフロントマネージャーから宿泊支配人を勤め、現在はカスタマーサービスのコンサルティングやトレーニングを個人で行い、その傍ら友人とパートナーでホテルオンライン予約サービスの企業で協力していこうとしています。

アフリカ・ルワンダ共和国

竹田あすかさん（2005年卒業）は本校を卒業後、海外ホテル研修生制度を利用して海外のホテルで研修を行いました。研修を経験した後、マレーシア・コタキナバルにあるシャングリ・ラ タンジュンアル リゾート＆スパでゲストリレーションオフィサーとして勤務、その後、日本に帰国し、ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテルにセールスコーディネーター、フロントスタッフ、オークウッドレジデンスにてフロントスタッフとして活躍した後、青年海外協力隊としてアフリカ・モザンビークでボランティア活動を行い、今後は同じアフリカのルワンダ共和国で旅行会社を立ち上げる事業に取り組むそうです。

アフリカ・モザンビークで
ボランティア活動を行う竹田さん

石塚校長と教職員と
左から３人目：竹田あすかさん

トピックス

卒業生が台湾のTVに登場！
～台湾出身　林子淳さん～

「ANAインターコンチネンタルホテル東京」で勤務している、台湾出身の卒業生、林子淳さん（2018年卒業）は日本での就職事情について、台湾のテレビの特集（「日本での就職は専門学校が強い」という内容の番組）で紹介されました。

卒業式では、留学生代表として
３ヶ国語で挨拶をした林さん

財団ニュース

第79回スコールクラブ世界大会2018
ケニヤ共和国モンバサで開催
～2018.10.17～21　40カ国、約600名が参加～

10月17日～21日、4泊5日の日程で、第79回スコールクラブ世界大会がケニヤ共和国のモンバサ市、プライドイン・パラダイスにおいて開催され、40カ国約600名がこれに参加しました。本財団から、石塚勉理事長参加しました。

スコールクラブは、観光業界の幹部を主たる会員とし、会員相互の友情やネットワークを通じて国際的なビジネスを展開することを目的とした国際組織で、現在、90カ国に400クラブ、14000人の会員を有する世界最大の民間組織。毎年1回開催される世界大会では、開会式、表彰式、セミナー、ワークショップ、商談会、総会、夕食会、ガラディナ等々が行われています。主たる行事は総会で、事業計画、収支・予算、規程類の改廃、役員人事、次期開催国等々が投票で決定される。特に、主催国は、世界に向けた自国の観光振興を目的にしているため、政府をはじめ観光団体、企業、自治体が協賛。この点、世界の観光事情が肌身に感ぜられるメリットがあります。2019年度は、アメリカのマイアミで開催の予定です。

ドイツ、マカオ、インドネシアからの代表との交流
晩餐会にて

スコールクラブ世界大会：総会風景

グアム、ローマ、ケニヤからのヤングコール代表との交流
（中央）アントニオ・ベルカリオ：スコール・ローマ会長、
（右）石塚勉校長：日本会長、アジア地区副会長

本財団の姉妹法人でもある専門学校日本ホテルスクールでは、2015年より新しい会員カテゴリーである「ヤングスコールクラブ」を結成し、国際性を具体化する一環として、公用語が英語であるため、英語専攻科の学生全員が会員となり、「YSCJ＝ヤングスコールクラブジャパン」をスコールクラブオブ東京の下部組織として、今年度105名が、その活動の一端を担っています。

石塚勉理事長が、アジア地区の副会長、日本の会長の任にあるため、試行錯誤しながら、その活動を広げつつあります。

中国・青島職業技術学院ご一行来訪
～日本のホテル学校教育について研修会開催～

10月18日、中国の青島職業技術学院の旅游学院（観光学部）にて教鞭を執られている邵紅主任教授他2名の職員の方が、専門学校日本ホテルスクールに来校しました。

来校の目的としては、旅游学院にてホテル日本語学科を立ち上げる構想があり、その調査研究の一環として、日本を代表するホテル学校でのレクチャーや校舎見学を希望され、当財団がコーディネートしたものです。

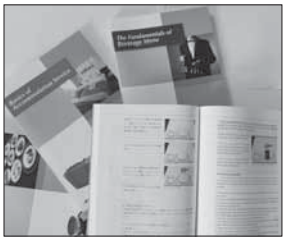
当日は、日本ホテルスクールの武内悟副校長から、『日本のホテル学校と教育』をテーマに教育制度や専門学校の定義など日本独特な仕組みや考え方を紹介。邵主任教授らは熱心に傾聴しノートを取り、質疑応答では予定時間を超過するほど非常に多くの具体的かつ建設的な質問が寄せられ、活気あふれる研修会となりました。

左から：武内副校長、邵主任教授、張主任、李副主任、勇財団教育事業部長

ホテル・ブライダルテキストのご紹介

日本ホテル教育センターは、宿泊、料飲、宴会、ブライダル関係及びマネジメントやマーケティングなど経営、管理関係のテキスト、５３種類を発行。全国の大学・短大・専門学校や、ホテル企業などの多くの教育機関・企業に導入されています。

特に、独自のナレッジスタンダードを基に開発した基礎教育テキストに、新たに日英対訳本を開発しました。英語を主とした授業で使用できるほか、該当する教科でも英語を身につける事ができると既に多くの学校に使用して頂いています。



■お問合せ・ご購入　一般財団法人日本ホテル教育センター
TEL：03-3367-5663　https://www.jec-jp.org/text/
mail:shoseki@jec-jp.org

編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03－3360－8231　kurosawa@jhs.ac.jp